

2018年3月25日

アジア共同行動日本連絡会議 御中

被爆二世の会 代表 寺中正樹

アジア共同行動日本連絡会議の第23回総会の開催、おめでとうございます。

平素は被爆二世の会の活動にご尽力頂きありがとうございます。特に毎年広島で行っている8・6青空集会には韓国の青年・労働者を初めたくさんの方にご参加頂き、共に核兵器廃絶・侵略戦争反対の集会を作り出すことができ、感謝しております。

昨年7月、米ニューヨークの国連本部において核兵器禁止条約が122か国・地域の賛成多数により採択されました。また12月にはICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞しました。世界は核廃絶に向かっています。

しかし、本年2月、米国のトランプ政権は核戦略の指針となる「核体制の見直し（NPR）」を発表しました。NPRは核兵器の使用条件の緩和や新たな小型核の開発などで、核廃絶に逆行しています。更に日本政府はNPRに抗議するどころか、「北朝鮮による核・ミサイル開発の進展等、安全保障環境が急速に悪化している」として、NPRを高く評価しました。私達はこうした動きに反対し、AWC山口らと共に日米両政府に対し抗議文を送りました。

日本政府は、いずれ自前の核兵器を持とうとしているかのようです。原子力発電に執着しているのも、そのためのようには思えてなりません。電力会社も日本政府も東京電力福島第一原発の重大事故から何も学んでいないようです。山口県では上関原発建設が35年前に浮上し、未だ撤回に至っていません。原発は事故を起こさなくとも労働者が被曝します。誰かを犠牲にしなくてはならない発電はいりません。

また去年は米軍岩国基地への空母艦載機部隊の本格移駐がはじまりました。岩国市は米軍との共存をかかげ、マスコミを使って米軍と市民の交流の様子を流し続けています。

しかし、騒音は隣の広島にまで広がるなど被害は増えています。愛宕山の見守りの集いは今も粘り強く続いています。そうした様々な基地反対の声を結集できた2017岩国行動は、地元の方々からも高い評価を得ました。

私達は全国被爆二世団体連絡協議会と共に国連人権理事会での取り組みや被爆二世集団訴訟を開始しました。また、祝島の人々と共に上関原発建設に反対し、岩国市民と共に米軍岩国基地拡大反対の声を上げ続けます。

今後もアジアから核の恐怖を取り除き、米軍基地を撤去させるために共に闘いましょう！

総会のご盛会を祈ります。